

トレイルを軸とした持続可能な地域づくり

～摩周・屈斜路トレイルの挑戦～

NPO法人 てしかがトレイルクラブ

【活動目的】

当法人は、「歩く道をつくり、歩く人をもてなす文化を醸成し、地域の活性化と観光振興に貢献する」ことを使命として、2019年に発足しました。翌年秋には摩周・屈斜路トレイル（以下「MKT」）をオープンさせ、その維持管理や利用の推進に取り組んでいます。

トレイル（歩く道）は、血管のようなものであり、人が歩くことにより血液が流れ、さまざまなことが動き出します。そして自然に親しみ、歴史や文化を発見し、住民との交流を通して地域に触れることは、訪問者の人生を豊かにします。また、歩く文化と歩く人をもてなす文化が地域に根付くことで、住民が地域の魅力を再発見してそれらに誇りを持ち、より豊かな気持ちで暮らすことができるようになります。私たちはそう考え、トレイルを軸に私たちの暮らす町が持続可能な地域になることを目指して日々活動しています。

【MKTの利用推進】

MKTは、阿寒摩周国立公園の東部に位置する摩周カルデラと屈斜路カルデラを歩き、森と湖と火山が織りなす自然景観や、火山の恵みである泉質の異なる良質な温泉を楽しむことができます。また、この地を受け継がれてきたアイヌの歴史・文化や地域の重要な産業の一つである農業に触れる機会もあるトレイルです。

北海道が推進するアドベンチャートラベルを志向する旅行者は、長期に滞在しながら地域の自然や文化を体験することに価値を見出す傾向が強いと言われています。新型コロナウイルス感染症拡大時から旅行者のニーズは、「自然の中でゆっくりとした時間を過ごす」に変化しており、MKTは今後非常に魅力的なコンテンツになり得ると考えられます。

多様な旅行者が、この地域を歩くことによって、1日でも長く滞在することで、地域経済の活性化に貢献するために、MKTをより魅力あるものにしていくことを目的として、次の3つの活動を行いました。

- 1 わかりやすい道標やサインの設置
- 2 地域のストーリーを紹介する多言語（日・英）の案内看板と解説看板の設置
- 3 ホームページからダウンロード可能な多言語（日・英）のトレイル概要地図の作成

MKTでは、なるべく自然に負荷をかけないよう既存の道路や旧道を活用していますが、一部では森の中に新たな散策路をつくりました。自然のままの森を楽しんでいただくため、散策路へのロープ設置などは行わず、道標やサインでルートを表示しています。今回はわかりにくい場所へこれらを増設しました。



MKTのサイン（空と湖のデザイン）

また、トレイル上にはこの地域ならではのストーリーがいくつも存在しています。これらをハイカーに知ってもらい、かつ地域住民にも再認識してもらうために、初めての試みとしてトレイルのハイライトともいえる2か所の看板を製作しました。1つは屈斜路湖畔に突き出る仁伏半島の入口に、「ニブシ」という名前の由来やここで観察できる植物や自然現象などについて、半島内トレイルの地図と共に掲載した案内看板を設置しました。もう1つは、屈斜路湖畔の池の湯温泉に、その優れた泉質と、かつてアイヌの人々に活用されていた歴史について記載した解説看板を設置しました。

今では全国から来たハイカーや、外国人旅行者が足を止めて読んでいます。当法人が実施する歩くイベントの際には、これらの看板を活用して、参加者の皆さんに改めてこの地域の魅力を確認してもらっています。

MKTのルートは、ホームページ上から「Googleマッ

プを利用して確認することができますが、特に道外の多くのハイカーから全体像がわかる地図がほしいという要望が寄せられていました。当事業で各セクションの見どころや、距離および高低差なども掲載した概要地図を作成してホームページへ掲載することで、ハイカーの利便性を高めることができましたと思います。

情報の発信については、その他SNSを活用して、ハイカーの紹介や、トレイルの状況、ヒグマ目撃情報などのタイムリーなトピックを配信すると同時に、ホームページを定期的に見てもらいファンを増やすことを目的として、地域に暮らす人が書く連載記事を、「読んで、歩くと、面白い」MKTマガジンとして掲載しています。

現在、MKTマガジンではトレイル周辺で観察できる植物の紹介シリーズと、「カムイ」にまつわるエッセイ集を配信しています。



解説板を使って、地域の魅力を再確認

【環境保全活動】

トレイルの利用促進と同時に、地域の環境保全は私たちの活動にとっても大きな目的の一つです。ふるさとの自然と景観を次の世代へ引き継ぐために、地域住民を巻き込みながら、環境保全活動を継続して実施しています。外来種駆除活動では、町の広報誌やSNSを活用して近隣地域住民に参加を呼びかけ、毎年アメリカオオハングソウとオオハンゴンソウの駆除を実施。オオハンゴンソウについては、自治体や環境省などの行政とも連携し、恒例イベントとして多くの方の協力を得ています。

当法人では、トレイルの定期点検を行っており、その際には必ずゴミを拾います。国道や道道沿いにはポイ捨てのゴミが常に落ちており、残念ながら森の中に

も不法投棄された家電などが見つかることもあります。永遠の課題のようにも見えるゴミ問題ですが、トレイルを多くの人が歩くようになり、地域の人々にハイカーをもてなす気持ちが生まれれば、おのずとゴミは減っていくのではないかと期待しています。

【今後の課題と展望】

MKTは現在総延長50kmのトレイルです。これを2025年までに全長90kmに延伸することを目指しています。ルート作りは、国有林、町有林、私有地など、多くの地権者および関係者のご理解・ご協力を得て、引き続き丁寧に協議を続けながら誰からも愛されるトレイルにしていく必要があります。延伸にあたっては、トイレや二次交通などの問題もありますが、地域の宿泊事業者や飲食店等とも連携して、トレイルエンジェル（歩く人を応援する人）を増やし、地域ぐるみでハイカーを応援し温かく迎える体制を整えていきたいと考えています。また、持続可能なトレイルとするために、整備ボランティアの受入体制を構築していく必要もあります。

昨年、町内小学校の5・6年生12名が、MKTを半年かけて6回に分けて完歩しました。その体験を記録した冊子が近く発行されますが、最初は歩くことだけで精いっぱいだった子どもたちが、回を重ねるごとに周囲の自然のすばらしさに気づき、地域で働く大人との交流を通して地域の魅力を発見しながら成長していく姿が良くわかります。

さまざまな人にMKTを歩いてもらい、「またここに戻ってきたい」と思ってもらえるような道づくりをこれからも継続していきたいと思っています。



トレイル途中の花畑で一休みする小学生ハイカー



<https://mashukussharotrail.jp/>

